

第1回登米圏域宿泊事業者部会

【日時】令和7年6月20日（金）14時30分から16時30分まで

【場所】登米合同庁舎 203会議室

【委員からの主な意見】

（1）施策1 観光地域づくりを行う地域への支援

- 古くて危険な看板の撤去をしてほしい。以前宮城県で実施していた「東北自然歩道・新奥の細道」キャンペーンの看板がまだ残っている。木で作っているの根元が腐って、グラグラしている状態。観光地にはそのような看板が結構残っている。早急に撤去をしてほしい。
- 新しい大きな観光案内看板の設置をしてほしい。視覚情報はやはり大事。高速道路や国道を載せると距離感や位置関係がわかりやすくなると思う。現在の主要な観光地だけでなく、これから発展しそうな観光地にも設置してほしい。岩手は案内版が整備されておりわかりやすく、多言語表記（日本語以外で4か国語）もされていて充実している。
- 店が閉じている時間帯は使えるトイレがなくて困る。市町村で整備するものなのかもしれないが、設置費や維持費について補助を県で出したら助かるのではないかな。
- うちの中田町浅水の長谷寺。寺に町指定の遮那桜があり、昔は町に管理してもらっていたが、今は自分で管理している。量が多いので、自分だけで管理するのは大変。管理費の補助などあればいいなと思う。
- 見るだけではない体験観光の整備（稲刈り、田植え、自分でやったお米を味わえる等）や、登米市のお店で使えるクーポンを出すなどして、登米市内に長く滞在してもらう工夫が必要だと思う。

（2）施策2 仙台からの送客・（仙台圏域内での）周遊性向上のための二次交通対策

- 観光客だけでなくビジネス客も観光をしたいというニーズがあるが、足がない。バスの乗り継ぎを調べるのも大変だし、本数も少ない。タクシーもつかまらない。観光客に「自転車ないの？」と聞かれることも多いため、ある場所で借りて、別の場所で返せるような自転車のレンタルサービスがあっても良いなと思う。観光客の行動範囲が広がり、お金を落としてもらえる機会も増えるのでは。
- 登米市に来るときにくりこま高原駅からのアクセスが課題。お客様からも「どうやって行ったらいいの？」とよく聞かれる。定額の料金で利用できる仕組みがあるといい。
- 自転車で観光ができるように。観光マップ（自転車での観光ルート）や、だれでも使える電動自転車を整備したり、タクシーでカードを使えるようにするのも良いと思う。
- 市内観光地である明治村周辺からうちのホテルまでは2kmほどあるが、高齢の方には負担が大きい。登米町にはタクシー会社がなく、タクシーを呼びたくても、短い距離では柳津や石森からは来てもらえないことが多い。町内の近距離の交通を担ってもらえる何かがあればいいなと思う。
- くりこま高原駅等で電車を降りた後の二次交通が課題。タクシードライバーも少ないようで、介護系の予約でいっぱいなんてこともある。低賃金でもドライバー経験のある地元住民に協力してもらって、宿泊場所まで送ってもらうなどもできるのでは。

（３）施策３ 快適な旅行環境のための受入環境整備

- 人材育成については、観光業界は農業同様、労働のわりに対価が少ないところが、若い人が定着しない原因だと思う。人材育成のための補助があってもいいのでは。農業では、「農の雇用」という制度があり、給料のうち一部を補助し、１年間はいろいろなことを学べたり、雇用する側にもお金が入ってきたりというものがある。やはりこういうものがないと地元の若い人がこない。外国人材という話もあるが、地元らしさを残すという点で、地元の若者に働いてもらうのが重要だと感じる。

（４）施策４ ターゲットを意識した効果的なプロモーションの展開（国内・インバウンド）

- インバウンドについては、クレジットや電子決済非対応の店が多いので、対応のお店が充実すると良いと感じる。お店側としては手数料の関係で置きたくないというところがあるのかもしれないが。
- オリンピックがくるときに健常者用のトイレの改修は行ったが、まだ障がい者用トイレの改修はできていない。誰が来てもいいような、迎え入れられるような設備の充実は、もっと色んな人に訪れてもらいたいと考えたときに出てくる課題なのかなと思う。誰もが安心して楽しめるような環境にすることで、全体の人数の底上げに繋がると思う。
- 多言語（中国語、韓国語）の看板の整備が必要。
- インバウンドで宿泊されている方については、若い人に関してはスマホで翻訳アプリを使用したり、さほど苦勞している、不便さを感じている様子はない。むしろ、苦勞しているのは日本の高齢の観光客で、看板とか案内を必要としている印象。
- 息子が赤ちゃんのときに秋田に旅行したことがあるが、道の駅での授乳室設備が非常に充実していた。常にお湯が専用の機械で設置されていて、自由に使えた。家族連れは人数も多い。先日障がい者の方のイベントもあったが、付き添われる方もいるので人数も倍になり、賑わっていた。子どもや障がい者の方にも優しい町を目指すことで、差別化されて賑わうのでは。
- 愛犬連れは入れるお店が少なく食事する場所に困るという話を聞く。当ホテルのカフェでも条件つきで入店できるようにしている。三滝堂（道の駅）にはドックランもあるので、そういう方を呼び込めるのでは。そういったニーズを持つ方はお金も持っている方も多い。
- 伊豆沼農産では空家を改装して宿泊業も始めた。想定するメイン客はバードウォッチングが好きな人や、最近誘致に力を入れているインバウンドの教育旅行の団体。民泊体験の需要は大きいですが、認知度が低く、そこで何ができるのかが旅行会社にも伝わっていない。そういったカントリーサイドな体験とか宿泊を希望している旅行会社等に提案していく必要がある。県にお願いのできるのであれば、登米市や県北エリアのもつコンテンツと相性のあうようなところと引き合わせてほしい。
- 足を運んでいただくためには、認知度を上げることが一番。コンテンツは観光地と比べるとなかなか厳しい部分があるので、先ほど話題に出ていたちょっとニッチな、登米市らしい登米市でなければできないものを、特定の層に強くアピールできるようなコンテンツを作っていくことが重要かと思う。
- インバウンド対応のハード面について。海外の人は、ツインルーム希望が多い。また、お風呂が

ついていること等が重要で、そうでないところは対象から外れてしまう。施設整備はとてもお金がかかるので、新設だけでなく施設改修への補助があってもいいのでは。

- インバウンド対応については、Wi-Fi が店の外でも使用できるようにするとより良いと思う。店で整備していても道路や駐車場では使用できない。

(5) その他の施策

- 県指定の文化財がいろいろあるが、宮城県ではほとんど補修がされていない。ぜひ文化財補修にお金を回し、宮城県にはこんなすばらしい文化財があると知ってもらいたい。
- 登米市には様々な資源があるのでうまく組み合わせて、売り出していくことが必要。
- 登米市のふるさと納税への宿泊プラン追加や、仙台の会社等の福利厚生として県北エリアの宿泊施設を使ったり、アクティビティを楽しんだりできるシステムづくりをする等の方法もあるのでは。